

「日本人と米」

あ つじ てつ じ
阿辻 哲次

京都大学教授

近所を散歩していて、お米屋さんの店頭に「新米入荷しました」という広告が出ているのに気づいた。帰宅してさっそく家人に話すと、広告はもうずいぶん前から出ており、わが家のご飯もしばらく前から新米にかわっているのに気がつかなかったのかと嘆かれた。

わが家の近くの田んぼでも、そろそろ稲刈りが始まるようだ。農業にはまったく素人である私の目には豊作に見えるのだが、さて今年のできはどんなものなのだろうか。

天候不良が続いて米不足になり、大慌てで外国からコメを輸入したのはもう十年以上も前のことになったが、それでもその記憶がまだ強烈に残っているものだから、近くの田んぼにイネがたわわに実っているのを見ると、別に自分のものでもないのに、それだけでなんとなく心が楽しくなってくる。

「米」という漢字は、何かの穀物の粒が穂に付いているようすを描いたものだが、その穀物がイネであるとは限らない。「米」は脱穀した穀粒の総称として使われた漢字で、中国ではイネを「大米」というのに対して、イネより粒が小さいアワを「小米」といい、「玉米」といえばそれはトウモロコシのことである。しかし、日本でははるか昔から、この字をイネの実だけを表す専用の文字として使い続けてきた。いつの時代も変わらない、日本人とイネとの密接なかわりをそこに見ることができらるだろう。